

●浜の話題

- 11月中旬以降、長井、大楠、葉山、小坪、鎌倉地区のワカメ養殖漁業者は、ワカメの種挿し作業（ワカメの種糸を幹縄に挟み込む作業）を行いました。長井地区では、アイゴ等藻食性魚類によるワカメの食害を防ぐため、防鳥ならぬ防魚ネットを張っています。
- 11月中旬、葉山町漁協所属の飯田さん（愛正丸）は、同漁協が実施している「葉山ワカメオーナー制度」のためにワカメの種挿し作業を行いました。このオーナー制度には今年も150名あまりの参加があり、来年2月上旬に収穫体験を実施する予定です。
- 11月20日、横浜市漁協柴支所は、今年で7年目になるホタテガイ養殖試験を開始しました。青森県から種苗を約6,000個導入し来春まで養殖します。養殖したホタテガイは漁港の直売場で販売されるほか、漁港の食堂「小柴のどんぶりや」のメニューにもなっています。また来年2月23日には、ホタテ浜焼き会のイベントが同漁港内で開催される予定です。青森生まれで横浜育ちのホタテガイは、地域の新名産として期待されています。
- 11月20日、横須賀市東部漁協に北海道産コンブの種糸が到着しました。例年、同漁協の好意により県内各地の要望をとりまとめ、必要数を北海道から購入しているものです。神奈川県産のコンブは柔らかく調理しやすい「早煮昆布」として人気があります。
- 11月21日、鎌倉漁協は（公財）相模湾水産振興事業団の支援を受け、（公財）県栽培漁業協会が生産した殻長約25mmのアワビ種苗6,000個を放流しました。当日は、13日に開催された「アワビ種苗放流に係る勉強会」の内容を踏まえ、海底地形や餌となる寄り藻等の状況を確認しながら、同漁協潜水部会員がスキューバ潜水と素潜りでホタテガイの殻に付着させた種苗を放流しました。併せて、地先漁場に殻長30mmのアサリ種苗100kgを放流しました。



鎌倉漁協漁業研究会・潜水部会のメンバー



アワビ種苗放流の様子

- 11月24日、県水産課と神奈川県漁連は、横浜市関内で「第2回神奈川県漁業就業セミナー」を開催しました。セミナーには漁業への就業を考える方々27名が参加し、第1部では本県漁業の概要の説明や先輩漁業者の体験談を聞きました。続く第2部では、従業員を募集している県内漁業者とのマッチング会が開かれ、参加者は皆、各ブースで就業条件などについて熱心に質問していました。
- 11月26日、茅ヶ崎市漁協は、チョウセンハマグリ稚貝分布調査（特別採捕許可）を柳島から小和田にかけての海岸で実施しました。今回の調査では稚貝は見つかりませんでしたが、あわせて実施した砂質調査の結果（現在分析中）をふまえて、今後のチョウセンハマグリ資源に対する取り組みを検討していきます。

- 11月26日、葉山町漁協は通常総会を開催しました。当日は任期満了にともなう役員改選があり、7名の新役員の方を選任しました。30年にわたり同漁協組合長としてご尽力された飯田 實さん（愛正丸）が退任し、新たに角田正美さん（新六丸）が新組合長として就任されました。
- 11月27日、横浜市漁協柴支所所属の有志漁業者で構成される「アカモク会」は、地先のアカモクの生息状況を調査しました。同会は昨年アカモク場の造成に取り組んでおり、調査の結果、昨年親株を移植した場所に新たにアカモクが生えていることが確認されました。
- 11月29日、東京都港区新橋で開催された「浜の活力再生プラン推進ブロック会議」において、城ヶ島漁協の石橋指導漁業士（英樹丸）が、浜プランの優良事例として同漁協の磯焼け対策の取組みを発表しました。アイゴやガンガゼの除去作業を行った結果、一部漁場で藻場の回復が認められた事等を報告し、出席者からは、除去したアイゴの利用方法やダイバーと漁協との連携等について質問がありました。



発表を行う石橋指導漁業士

- 11月29日、横須賀市大楠漁協は久留和地区で磯焼け対策の一環としてウニ除去を実施しました。当日は同漁協所属の梶谷青年漁業士（武丸）と関澤青年漁業士（権八丸）の船に、東京海洋大学の学生やボランティアダイバーが乗船し、スキューバ潜水で磯焼けの原因となるウニ類 15,965 個を除去したそうです。



ウニ除去の参加メンバー



磯焼け海域のムラサキウニの生息状況

- 11月30日、横須賀市東部漁協走水大津支所では、地元の市立走水小学校3年生が総合学習としてワカメ種挿し体験をしました。参加した生徒はワカメ生活史の説明を受けた後、ワカメ種糸を幹縄に着ける作業をしました。ワカメは、小学校の窓から見えるイカダで養殖され、来春にワカメを収穫する体験も予定されています。